

A-2

☆ 自立活動の指導のための個別の指導計画 (例)

～A4・1枚型～

氏名 学年 障がい名等 作成日

【実態把握に基づいて得られた指導すべき課題や課題相互の関連の視点から】

個別の教育支援計画で集めた本人の情報(困難さ、長所・よさ等)から、課題相互の関連を考え、指導すべき目標までの理由が分かるようにします。

参考：第三章-4(3)②-1『実態把握情報収集シート』、②-2『自立活動の指導のための早見表(例示)』

今、指導すべき目標

整理した情報から、「今、指導すべき目標」を決めていきます。
* 個別の教育支援計画との一貫性も確認します。

その目標達成に向けて、何の項目が関連しているか「必要な力」を考える！

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション

何の項目が関連しているか、チェックしていきます。

指導内容との関連を図り、線をつなぎます。

指導内容	場合によっては、指導内容が1つや2つの時もあります。		
場面指導	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導	教育活動全体時間における指導
評価	学校や学級等によって、この欄で狭い時、書きにくい時には、別紙にて作成してもよいと思います。評価の時期(学期、前期・後期、年1回等)も、学校の現状によって決めてください。		指導場面を確認し、○で囲みます。

【次年度に向けた引き継ぎ】

今年度の指導目標はどうだったか、また、指導すべき課題についてもう一度確認することで、次年度以降の継続につながっていきます。